

ちば文化資産 追加候補概要

令和4年11月17日現在

No.	文化資産名	説明文	所在市町村
1	千葉県文化会館	千葉県文化会館は1967年の開館以来、国内外の著名なアーティストのコンサートや舞台、吹奏楽コンクールをはじめとする音楽コンクールの会場となるなど、本県の文化芸術のシンボリックな劇場として、長年の間、県民の皆さまに親しまれています。また、日本の戦後を代表する建築家である大高正人氏によるデザイン・設計であり、「日本建築学会賞」作品賞やBCS賞を受賞するなど、優れた建築物としても高い評価を受け、後世に伝える素晴らしい資産としてその存在を誇り、今日に至っています。	千葉市
2	千葉市の花「オオガハス」	昭和26年（1951年）、植物学者の大賀一郎博士は千葉市花見川区の現在の東京大学検見川総合運動場の地下6mにある約2,000年前の泥炭層から、古代ハスの実を発掘しました。翌年、見事に開花させたこのハスは「オオガハス」と名付けられ、世界最古の花及び、千葉県の天然記念物として指定され、今年で開花70周年を迎えています。毎年、千葉公園のハス池で華やかな花を咲かせ、国内外で200か所以上分根されています。	千葉市
3	千葉市民ギャラリー・いなげ（旧神谷伝兵衛稲毛別荘）	ワイン王として知られる初代神谷伝兵衛が、大正7年に来賓用の別荘として建てた洋館です。建物は1階が洋室で2階が和室の和洋折衷の造りになっています。コンクリート構造の建物としては市内で最も古く、国登録有形文化財に登録されています。	千葉市
4	千葉市ゆかりの家・いなげ（旧武見家住宅）	保養地としての稲毛の歴史を今に伝える貴重な和風別荘建築です。昭和12年（1937年）には、清朝最後の皇帝 愛新覚羅溥儀の実弟である溥傑夫妻が、半年ほどこちらに居を構え、新婚生活を送りました。千葉市地域文化財に登録されています。	千葉市
5	大町梨街道	市川市内を走る国道464号線の大町地区の区域は、通称『大町梨街道』と呼ばれ、道沿いには約50軒もの梨屋が軒を連ね、街道にはためくのぼり旗は、市川市の夏の風物詩となっています。シーズンには、市内外から「市川の梨」を求めて、多くのお客さんが足を運び、賑わいを見せています。大町梨街道は、千葉県が梨の一大産地であることを表す地域であるといえます。	市川市
6	葛飾八幡宮と八幡の藪知らず	葛飾八幡宮は、寛平年間（889～898年）、宇多天皇の勅願により京都石清水八幡宮から勧請した神社といわれています。国指定天然記念物「千本公孫樹」があるほか、年中行事や市民イベントの会場としても賑わいます。また、市役所前に位置する藪は、足を踏み入れると二度と出られない「八幡の藪知らず」として知られ、様々な伝承が残されています。水戸黄門が藪に入り、神の怒りに触れたという話が全国に広まりました。	市川市
7	行徳の神輿と祭り	近世中期から近代にかけて、製塩業や舟運で栄えた行徳。この繁栄のもと多くの寺社が造営され、宮大工や神・仏具職人の技術を生かした神輿づくりは地場産業となりました。見ごたえのある神輿の渡御は、現在も祭礼の華として受け継がれています。平成30年に開館した「行徳ふれあい伝承館」は、国登録有形文化財「旧浅子神輿店店舗兼主屋」を活用した施設で、神輿や祭りなどの地域にゆかりある資料を公開しています。また、江戸時代より神輿づくりを行う中台製作所には、工房の敷地内に「行徳神輿ミュージアム」があります。華やかな神輿、普段は見ることが出来ない神輿の内部や、職人が使用する道具などを展示しています。	市川市
8	真間山弘法寺	弘法寺は、長い石段を上った高台に建っています。天平9年（737年）に行基菩薩が建立しました。約100年後の弘法大師によって「求法寺」から「弘法寺」に改められたといわれています。鎌倉時代以降に日蓮宗の寺となりました。明治21年（1888年）の火災により大部分を焼失し、現在の諸堂は明治23年（1890年）以降に改修・建築されたものです。境内には100本を超える桜があり、特に「伏姫桜」と呼ばれる樹齢400年のしだれ桜は圧巻です。	市川市
9	ばか面おどり	明治時代、漁師町で疫病が発生したり海難や不漁が続いたため、漁師たちが厄払いと海上の安全、豊漁を祈願して始められたと伝えられています。ひょっとこなどの面をつけ、囃子の音に合わせてこっけいな仕草を交える踊りです。公民館や学校で今も取り組まれているほか、「湊町八剣神社の本祭り」でも踊りが行われています。また、「ふなばし市民まつり」でも、「ばか面パレード」に12町会が参加し、船橋駅周辺の駅前通り・本町通りを練り歩きます。	船橋市

ちば文化資産 追加候補概要

令和4年11月17日現在

No.	文化資産名	説明文	所在市町村
10	習志野ソーセージ	第一次世界大戦中に、習志野俘虜（ふりよ）収容所に収容されていたドイツ人から、ドイツ式ソーセージの製法が日本で初めて伝えられたという歴史的事実から、習志野商工会議所が地域団体商標登録した上で、当時のレシピをアレンジしご当地グルメとして商品化しました。習志野市を「日本のソーセージ製法 伝承の地」として、有力な地域ブランドに育て上げ地域活性化に役立てています。	習志野市
11	本土寺と紫陽花	「あじさい寺」としても知られている本土寺は、1277年に建立された、日蓮宗本山の寺院です。初夏の頃に咲きほこる紫陽花と花菖蒲がみられるスポットとして、地元で大人気の観光地です。また、春にはさくら、秋には紅葉を楽しむことができます。	松戸市
12	萬満寺の仁王尊股くぐり	萬満寺は1256年に建立されました。中門の中の二体の仁王尊は、国の重要文化財に指定されています。「仁王様の股くぐり」で知られ、古来、人々はこの仁王尊の股の間をくぐると、その1年間は無病になるといわれています。この儀式は一般公開時に行う事ができます。	松戸市
13	御用醤油醸造所（御用蔵）	御用醤油醸造所（通称「御用蔵」）は、2011年（平成23年）にキッコーマン食品野田工場内に移築されたものです。移築前の御用蔵は、宮内省（現宮内庁）にお納めするしょうゆの専用醸造所として、1939年（昭和14年）に江戸川沿いに建設されました。なお、老朽化で大規模な補修工事が必要となり、70年の節目に移築工事を実施。移築にあたり、しょうゆを仕込む木桶、屋根の小屋組み、屋根瓦、石垣、門などは移築前のものを使用し、原形に近い形で再現しました。御用蔵では、現在も宮内庁にお納めするしょうゆを醸造。また、伝統的なしょうゆ醸造技術や1939年の御用蔵の建設当時の道具や装置を保存・展示しています。	野田市
14	旧花野井家住宅	構造や形式から江戸時代前期に建造されたと思われる古民家で、国の重要文化財に指定されている貴重な建築物です。花野井家は、江戸時代には幕府の軍馬等を供給する小金牧において、牧を管理する牧士という役を代々努めてきました。昭和46年に野田市が花野井四郎氏から寄贈を受けて流山市前ヶ崎から現在の位置に移築、建造当初の形に復元して公開しています。	野田市
15	野田のつく舞	毎年7月15日前後の土曜日、上・仲・下町の野田三ヶ町夏祭りの中日に雨乞いの神事つく舞が奉納されます。あたりが暗くなった頃、蛙の面をかぶった白装束の「ジュウジロウ」を中心に、御神酒所前から会場まで練りこみ行列が練り出されます。会場には高さ約14.5mの見上げるような「つく柱」が立てられており、ジュウジロウが囃子に合わせて登っていきます。途中で曲芸的な演技をしながら、やがて頂上の樽の上にたどりつくくと、ここから南、西、北、東の順に破魔矢を1本ずつ放ちます。頂上でも演技を披露し、やがてくんだり綱を伝って降り始めますが、その途中でも演技を行います。最後はくんだり綱を一気に下り、舞は終わります。御神酒所前まで練りこみ終了となります。	野田市
16	吉祥院	創建は不詳。境内にはカヤの巨木があり、毎年お盆の時期には柏市無形文化財の「大室の盆綱引き」の盆綱が境内に奉られます。境内では、5月にはぼたんが見ごろを向かえ、美しい姿を楽しむ事ができます。また、木から彫り出す仏を数年かけて制作中です。	柏市
17	旧吉田家住宅歴史公園	旧吉田家住宅は、苗字帯刀を許された士分格の家柄・豪農・商家といった3つの側面をもった大型民家の屋敷構えが特徴的で、当地方の農家における住宅形式の到達点として高い価値を有しています。また、屋敷林や庭園を含めて屋敷構え全体が今日まで良好な状態で伝えられています。平成22年に、主屋・書院・新座敷・長屋門・向蔵・新蔵・道具蔵・西門の8棟が国の重要文化財に指定され、庭園及び屋敷林などは、平成24年に国登録記念物（名勝）に登録されています。	柏市
18	旧手賀教会堂とイコン	旧手賀教会堂は、明治14年に茅葺屋根の民家を教会堂に転用したもので、現存する日本で唯一の転用教会堂です。明治期の女流作家として高い評価を受ける山下りんが描いたものです。聖画はハリストス正教会でイコンと呼ばれるもので、主全能者（キリスト）、至聖生神女（マリア）、機密の晩餐の3点です。いずれも伝統的な構図を守りつつ、描かれている聖人たちの表情は日本画的なやわらかな表現に満ちています。	柏市

ちば文化資産 追加候補概要

令和4年11月17日現在

No.	文化資産名	説明文	所在市町村
19	紅龍山 布施弁天 東海寺	大同2年（西暦807年）に弘法大師空海御作といわれる弁財天像をご本尊（秘仏）として開山された祈願寺です。平成18年には本堂・楼門・鐘楼が県指定有形文化財（建造物）に指定されています。 また、布施弁天は、浅草寺弁天山（浅草寺弁天堂）、江島神社弁天堂とともに関東三弁天のひとつにかぞえられています。	柏市
20	こんぶくろ池自然 博物館	こんぶくろ池自然博物館は、都市に残された18.5haの広大な自然の森です。園内のこんぶくろ池と弁天池は、台地上に地下水がしみ出す、珍しいタイプの湧水で、池から流れ出す水は、地金堀、大堀川を經由して、手賀沼の自然水源となっています。 園内には、貴重な動植物が多様性豊かに生息、生育していますが、この自然を守るため、市民が中心のNPO法人が管理運営しています。	柏市
21	篠籠田の三匹獅子 舞	毎年8月16日に西光院境内で行われます。獅子舞の始まりは、徳川5代将軍綱吉の頃の元禄時代といわれています。篠籠田の獅子舞は、龍神をかたどる「龍頭の獅子」です。祖先の霊をなぐさめ、五穀豊穡と家内安全を祈願します。県指定無形民俗文化財に指定されています。	柏市
22	神明社	塚崎地区の鎮守で、境内の社碑によれば、当神社の創建は鎌倉時代末期の頃とされます。当神社は、天照大神（大神宮）・応神天皇（八幡社）・武甕槌神（春日社）の三社を祀る典型的な三社神明で、社殿は伊勢神宮の方向を向いています。境内にある石鳥居と手洗鉢が柏市指定有形文化財に指定されています。また、例年10月17日、神明社の大祭に神楽殿で奉納される十二座神楽は柏市指定無形民俗文化財に指定されています。	柏市
23	船戸のおびしゃ	「おびしゃ」は関東地方、特に千葉県に多く、もとは弓を射て的に当てることで、その年の豊穡を祈る行事です。船戸のおびしゃは、現在は射は行われていませんが古い形態を持つ踊りとして貴重な存在です。船戸のおびしゃは、元和年中（1620年頃）から始まったとされ、天保7年（1836）から毎年1月20日に行われるようになったそうです。現在は、1月20日直前の日曜日に行われています。	柏市
24	増尾中世城郭群	柏市増尾地区には鎌倉時代から戦国時代の城郭跡が2ヶ所あり、ともに城郭の遺構がよく保存されています。 「幸谷城」は、地元では古来より「きつね山」と呼ばれ、相馬胤村－阿蓮－相馬師胤－相馬重胤が居城したと伝わっています。城跡の遺構が良好に保全されています。敷地内には国の登録有形文化財・伊藤家住宅があります。 「増尾城」は、地元では古来より「城山」と呼ばれ、築城主は不明ですが最後は、小金城主・高城胤則家臣、平川若狭守が居城したと伝わっています。同様に城跡の遺構が良好に保全されています。 この他、増尾には奥州相馬中村藩が代々お詣りしたという妙見堂跡（石碑）やお城に因む多くの屋号、民話も残されています。	柏市
25	松ヶ崎城跡	戦国時代（15世紀後半～16世紀前半）の中世城跡です。手賀沼を見渡す台地先端部に土塁と空堀に囲まれた方形単郭の郭を主体に、古墳を転用したとされる櫓台跡や台地斜面には腰曲輪が残されています。発掘調査の結果、曲輪、土塁、空堀、虎口、土橋が当時のまま良好に残されていることが分かりました。なお、発掘調査後、環境整備・説明板設置などを行い、現在城跡内は自由に見学できるようになっています。	柏市
26	天神坂	自然石を敷いた石段による坂道です。坂を上ると左手には、民藝運動を推進した柳宗悦、声楽家兼子夫妻の住居跡があり、3本のスタジイの木があることから柳の叔父の嘉納治五郎に『三樹荘』と命名されました。武者小路実篤、志賀直哉などの文人や陶芸家バーナード・リーチもかつては、この坂を足繁く歩いたことでしょう。坂を覆うように大きく枝葉を広げる三樹は、景観法で定める景観重要樹木に指定されており、今も当時の面影が保たれています。	我孫子市
27	国史跡下総小金中 野牧跡「捕込」	徳川家康は良馬の産地として知られていた下総に、江戸幕府直轄の牧を整備しました。その1つが小金中野牧です。捕込は、年に1回行われる野馬捕りによって、追い込んだ馬を選別する施設です。江戸幕府の軍馬生産を知る上で貴重な遺跡であるとして、平成19年（2007年）2月に牧跡としては全国で初めて国史跡に指定されました。毎年4月の第1土曜日には史跡の歴史に触れ、馬にまつわる遊びができる「とっこめ桜まつり」を開催しています。	鎌ヶ谷市

ちば文化資産 追加候補概要

令和4年11月17日現在

No.	文化資産名	説明文	所在市町村
28	流鉄の景観	流鉄は白みりんの醸造などで栄えた流山本町とJR常磐線の馬橋駅を繋ぐ5.7kmの鉄道です。大正2年に流山の商人らが中心となって発起し、住民等が出資して出来た鉄道です。単線を2両編成の電車が走行する沿線は、昔は雑木林や農地が広がっていましたが、現在は宅地化が進みました。	流山市、松戸市
29	宗吾霊堂の御待夜祭	宗吾霊堂は、宗吾様の名で親しまれる古刹で、御待夜祭や紫陽花名所として知られています。開基は古く、桓武天皇の時代に征夷大將軍・坂上田村麻呂が、房総を平定した時に戦没者供養のために建立したと言われています。御待夜祭は、義民佐倉宗吾(木内惣五郎)の遺徳を偲んで、命日に近い9月の第1土曜日・日曜日に行われます。	成田市
30	国立歴史民俗博物館	歴史学、考古学、民俗学の資料展示など、日本の歴史と文化について総合的に研究・展示を行っている国立歴史民俗博物館です。先史・古代から現代に至るまでの資料がテーマ別に数多く展示されています。また、館内の大きなガラス窓から望める桜の木々を屏風絵に見立てた風景は、特に花が咲き誇る春の時期に訪れた方の目を楽しませてくれます。	佐倉市
31	佐倉花火フェスタ(佐倉市民花火大会)	オランダ風車がランドマークの佐倉ふるさと広場にて毎年8月第1土曜日に開催しています。広大な土地を活かした佐倉名物“二尺玉(開花時直径約500m)”や印旛沼湖面に映える“水上花火”、関東では珍しい“手筒花火”など印旛沼湖畔に咲き誇る百花繚乱をお楽しみください。令和3年度・4年度は新型コロナウイルス感染症に対応した、複数箇所で開催を継続しています。	佐倉市
32	縄文の森 井野長割遺跡	井野小学校建設の造成工事中に発見された縄文時代後期(今から約3,000~4,000年前)のムラの跡です。広場の周りに環状にめぐる盛土(環状盛土)を現在も見ることができます。これまでの発掘調査により、広場とそこから伸びる道路跡を中心とした計画的なムラづくりの様子が確認されました。遺跡の中に建つ学校として、歴史学習に活用されています。また、住宅や商業施設に囲まれた中であって貴重な森でもあります。	佐倉市
33	千葉県両総馬匹農業協同組合事務所	大正15年(1926年)に設立された「千葉県両総畜産組合」の事務所として建設されました。建物は歴史を感じさせレトロ感溢れる重厚な造りになっています。平成14年までは馬のセリも行われていた場所でもあり、千葉県が誇る競走馬の生産・育成に寄与してきました。現在でも関東における競走馬生産・育成牧場の拠点となる施設であり、競走馬のふるさと案内所千葉連絡センターとして、競走馬に関する様々な情報を提供しています。	富里市
34	安食の酉の市	関東地方で最も遅い時期に開催される安食の酉の市(12月第1酉の日前後)は、大鷲神社の例大祭で、江戸時代後期から明治後期にかけて、船運による成田山参詣の安食河岸への乗降客や、周辺農村の農具市的な色彩で賑わいを見せました。近年も商売繁盛、出世開運にご利益のある福熊手を求める客でにぎわいます。また、境内に祀られる「魂生大明神」は、子宝・安産にご利益があり、年間を通じて参拝客が絶えません。	栄町
35	布鎌惣社水神社の奉納相撲と水塚のある景観	利根川などの河川に囲まれた布鎌地区は、江戸時代前期の開拓入村時から水害と戦ってきた地域で、屋敷の一角には洪水時に避難するために築かれた水塚が現在も残っています。また洪水などの被害からの地域の安寧を祈願し、布鎌地区全域が氏子となり、1757年に布鎌惣社水神社が建立されましたが、この水神社には、洪水があるたびに白馬に乗った水神様が布鎌の堤防を見て回ったという伝説があります。水神様は相撲好きの神様として知られていることから、毎年、秋の例大祭には奉納相撲が行われ、現在も地元の子供たちによって受け継がれています。	栄町
36	日本寺・中村檀林跡とあじさい	日本寺は、市川市にある中山法華経寺の三世日祐上人が元応元年(1319年)に開基した日蓮宗の古刹。仏教史上有名な檀林(学校)のある寺として知られ、全国から学僧たちが集まりこの地で学びました。あじさいが多く植えられ、「あじさい寺」とも呼ばれています。あじさいが咲き誇る時期には、「ふるさと多古あじさい祭り」が開催され、初夏の多古町の風物詩となっています。栗山川沿いに咲くあじさいとともに、多古町あじさい公園では竹で作られた1日限りのジェットコースターをはじめ、歌やダンスなどの多彩なステージを楽しめます。	多古町

ちば文化資産 追加候補概要

令和4年11月17日現在

No.	文化資産名	説明文	所在市町村
37	芝山仁王尊観音教寺	芝山仁王尊観音教寺は奈良時代に開創したと伝わる古刹です。珍しいお堂形式の仁王門に安置されている仁王尊は、火事・泥棒除け、子育てに靈驗あらたかで、江戸時代には成田不動尊と共に江戸庶民の信仰を集めました。境内に建てられた参拝記念の石碑が当時の賑わいを現在に伝えています。	芝山町
38	殿塚・姫塚古墳と芝山古墳・はにわ博物館	殿塚古墳・姫塚古墳は山武地域を代表する古墳で、国指定史跡となっており、中でも殿塚古墳は墳丘長約90mの大型前方後円墳です。昭和31年（1956年）の発掘調査で出土した埴輪は、アゴヒゲの武人をはじめとして精巧で造形美に優れたものが多く、芝山町がはにわの町と呼ばれるきっかけとなりました。 芝山古墳・はにわ博物館では、「房総の古墳と埴輪」をテーマに、県指定有形文化財の殿塚古墳・姫塚古墳出土埴輪など、周辺地域から出土した埴輪を一堂に集めて展示しています。	横芝光町、芝山町
39	白樹粉屋おどり	芝山町白樹地区にあった粉屋の美しくも薄命だった娘を慕う唄と踊りで、「おいとこ節」とも呼ばれます。江戸時代の天保年間（1830年～1843年）に江戸で流行し、明治・大正では芸事の習い始めに用いられたといわれています。岩手県や宮城県ではおいとこ節が地元の代表的な民謡として伝わり、東京都・埼玉県・神奈川県では「白樹粉屋」が、万作踊り・お洒落踊り・飴屋踊りなどといわれる郷土芸能の演目のひとつとなっています。	芝山町
40	笹川の神楽	鎌倉の鶴岡八幡宮が造営された建久2年（1191年）、千葉成胤、源氏一族の武運長久を祈願して奏したのが始まりと伝えられています。 文明7年（1475年）、東常縁によって総社信州諏訪大神の神楽と融合させた形で、いまの神楽が誕生しました。 猿田彦大神（天狗）、乙女の舞（おかめ）など16面で構成されています。 神楽の奉納は、東庄町笹川地区7つの区が回り番で担当し、7年目毎に当番となった区の青年たちが、先輩の教えを受けて舞台に立ちます。昭和40年に県指定無形民俗文化財に指定されています。	東庄町
41	龍角寺古墳群・岩屋古墳（国指定史跡）	印旛沼に面した台地に点在する龍角寺古墳群は、古墳時代後期から終末期にかけて形成された県内でも有数の大規模古墳群で、総数110余基を数え、全体の指定面積は44万5,000平方メートルで千葉県では最も広い面積の国指定史跡です。中でも、岩屋古墳は、三段築成で、2つの石室を要し、周溝部を含む一辺が108.108メートル、高さ13.2メートルで古墳時代終末期の方墳としては、全国第1位の規模となります。また、古墳群の中のみそ岩屋古墳の石室を加えた3つの石室は「三ヶの岩屋」と呼ばれ、隠れ座頭という妖怪が住んでいたという民話が残され、現在もボランティアによって語り継がれています。	栄町、成田市
42	ちばの戦国時代・本佐倉城跡	房総の有力な武家、千葉氏が戦国時代に本拠地とし、城周辺すべてが湿地帯という天然の防御を擁する大規模な城郭です。発掘調査の結果、屋敷群が発見され、千葉氏が使用した当時の高級品が多く出土しました。戦国時代末期の様相を現在にそのまま残しており、千葉氏の縁を偲ぶことができる史跡となっています。 佐倉市と酒々井町にまたがり所在し、国指定史跡であるほか、続日本100名城にも選定されています。	佐倉市、酒々井町
43	大原幽学旧宅	幕末の農村指導者である大原幽学は世界初の農業協同組合「先祖株組合」をつくった人物です。自らの学問を提唱し遊歴していた幽学が、この地の門人たちにより提供され住居としたもので、旧宅のほかにも耕地整理を行った水田やゆかりの地は遺跡史跡公園となっています。	旭市
44	玉崎神社	中世には龍王崎の地にありましたが、積年の海蝕を避けるほか、天文2年（1533年）には兵火に遭い、西北西の現在地に遷座したと伝えられています。 本殿は一間社流造で、中世末期の様式とともに江戸時代の様式をあわせもちます。 拝殿は5間×3間の入母屋造です。阿吽の唐獅子や、飛龍の籠彫りをはじめとする彫刻は、石田丹治栄貞や岡佐内耕浚ら、江戸時代末期、当地が生んだ名工たちの力作です。	旭市

ちば文化資産 追加候補概要

令和4年11月17日現在

No.	文化資産名	説明文	所在市町村
45	日吉神社	日吉神社は東金に古くから鎮座する神社のひとつです。江戸時代初期の改築と伝わる本殿や、徳川家康が植樹させたという表参道の杉並木、神使であるサルの石像等があります。 また、2年に一度、日吉神社連合祭典と呼ばれる祭礼が行われます。江戸時代から行われている祭礼で、9地区の山車・屋台が市内を練り歩きます。日吉神社の神輿と9地区の山車・屋台が一堂に会する瞬間は圧巻です。	東金市
46	八重垣神社祇園祭	八重垣神社祇園祭は、毎年8月4日・5日に行われる市最大のお祭りで、神輿の行列に冷水を浴びせかけるのが特徴です。4日には全国でも珍しい「女神輿」が、5日には10町内から集まった20基ほどの神輿と囃子連が延々と連なって市街を練り歩きます。	匝瑳市
47	浪切不動尊（成東山 不動院 長勝寺）	成東下町の標高30メートルの小丘「石塚山」（石塚の森）の中腹の岩石に、成東山不動院長勝寺本堂が建てられています。入母屋造りの瓦葺き、間口三間、奥行四間、欄干・回廊をめぐらせた、朱塗りの懸崖造りのお堂です。寺伝の縁起書によれば、不動尊本尊の由来は、天平年間に行基が不動尊本像を刻んだことと伝えられていますが、当本堂の創建年代は不明とされています。なお、元和4年（1618年）の改築という棟札があったといわれています。	山武市
48	ぼさま踊り	農作業の動きを基本とした労作歌で、数人が輪になって廻りながら麦をたたき動作を応用した盆踊りです。大網白里市内の沿岸地域の南今泉や四天木では、盆が近づいてくると、若者が砂浜に集まり、仲間同士5、6人が輪を作り「ぼさま」を唄いながら踊り始め、やがて10数人を中心とした踊りの輪が、砂浜一面に繰り広げられました。現在は白里郷土芸能保存会が継承しているだけでなく、夏祭りや地域の幼稚園・小学校の行事などで多くの方が踊っています。	大網白里市
49	里見氏城跡 稲村城跡・館山城跡	戦国時代から江戸時代まで10代170年にわたり房総半島を支配した里見氏の城跡です。稲村城は前期里見氏が安房平定をしたころの城で、国衙や国府湊などの安房中心部をおさえた水陸交通の要地です。館山城は里見氏最後の当主である忠義が倉吉へ移るまでの居城で、鷹ノ島湊を中心に整備された城下町が現在の館山市の元となりました。稲村城跡は国の史跡、館山城跡は市の史跡に指定されています。	館山市
50	安房国一宮 洲崎神社	洲崎神社は、東京湾の出入り口を見下ろす場所であることから古来、漁業神・航行神でした。社殿は標高110mの御手洗山の中腹、潮風を受けた自然林に囲まれ、148段の急こう配の石段を登ったところに鎮座しています。 例祭では、「ミノコオドリ」が奉納され、傾斜30度の石段を御神輿がもみながら降りる「御浜出」はとても迫力があります。なお、「ミノコオドリ」は基本的に小中学生の少女が踊り手となり、太鼓と歌にあわせて輪になって踊る千葉県指定民俗文化財です。 また境内からは太平洋を一望できるほか、浜鳥居から富士山を眺めることもできます。	館山市
51	洲崎灯台	千葉県最西端の洲崎にある高さ15mの灯台。大正8年（1919年）に点灯し、東京湾の入り口を示す灯台として、航行する船舶の安全を支えています。展望台からの景色は絶景で、富士山や伊豆大島などを眺めることができます。	館山市
52	館山城・城山公園と館山湾	館山城は、里見氏9代義康が本城とした城で、里見義頼によって築城されました。南総里見八犬伝の舞台としても知られています。1614年（慶長19年）に館山藩は取り潰しとなり、廃城となりましたが、昭和57年に模擬天守が建設され、現在は内部が八犬伝博物館になっています。館山湾や館山市内を一望できる山頂にあり、山全体が城山公園として、サクラや紅葉の名所となっているほか、公園内には館山市立博物館があります。館山城からは、館山の街並みと館山湾を見渡せ、遠くは富士山や三浦半島も望むことができます。 また、館山湾は鏡のように波静かなところから別名「鏡ヶ浦」とも呼ばれています。館山湾に沈む夕日は「日本の夕陽百選」にも選ばれ、ヤシの木が並んだ海岸からは、海越しに富士山を望む夕日が見られます。また5月と7月には運が良ければ海越しの富士山に夕日が沈むダイヤモンド富士を見ることもできます。	館山市

ちば文化資産 追加候補概要

令和4年11月17日現在

No.	文化資産名	説明文	所在市町村
53	千葉県立安房南高等学校旧第一校舎	千葉県立安房南高等学校旧第一校舎は、1930年（昭和5年）に関東大震災の教訓をもとに日本の木造建築と西洋建築の要素を融合させ、さらに新しい建築技術を背景に建てられました。左右対称に大きく羽根を広げたようなデザインや階段の欄干、外壁のレリーフ、玄関脇の窓など随所に装飾が施されています。平成7年に県指定有形文化財（建造物）に指定されています。	館山市
54	那古寺	那古寺は安房地方を代表する観音信仰の霊場として、古来より多くの人々の信仰を集めました。坂東三十三観音巡礼札所の結願寺として、安房国札三十四観音霊場の第一番札所としても知られています。また、戦国武将里見氏など地域の有力者から庇護を受けてきました。境内には国重要文化財の銅造千手観音立像や県指定の那古寺観音堂、那古寺多宝塔、木造阿弥陀如来坐像、繡字法華経普門品など多くの文化財が残されています。	館山市
55	ナマダ干しの風景	ナマダを開いて干す風景は、冬の風物詩となっており、ナマダ干しは郷土食として親しまれています。ウツボのことを「ナマダ」といい、ナマダ漁は館山市内相浜地区で脂が一番のっている11月末から12月に行われます。獲れたナマダは頭を落として背開きにし、ナライ（北風）が吹く時期に1日天日に干します。	館山市
56	榎（マキ）の小道、生垣	海からの強い風や潮を防ぎ、火災の延焼も防ぐために榎（イヌマキ）の生垣で屋敷の周囲を囲んだ集落景観です。生垣に使われるイヌマキは、南房総の温暖な気候に適した常緑針葉樹で、細かな葉が密集するため、防風・潮、防火の効果が高く、その生垣は海岸部の集落にとっては欠くことのできないものです。	館山市、南房総市
57	勝浦大漁まつり	例年9月に4日間行われる漁師町・勝浦のお祭りです。初日は各地区の神輿や屋台が練り歩き、2日目は、各地区の神輿が一堂に会し、一斉担ぎが見られる合同祭典が行われます。3日目は、江戸時代後期の山車・屋台の引き回し、最終日は勝浦漁港で船から船へと神輿を渡す「神輿の船渡し」などが催されます。	勝浦市
58	遠見岬神社	房総半島に技術と文化をもたらした天富命を祀る神社です。創建は非常に古く、承和2年(835年)には社殿を改修した記録が残されています。創建した勝占忌部の名は、勝浦の地名の由来となったと伝えられています。参道に朱の灯笼が45基設置されており、毎晩明かりが灯されます。境内の高台からは勝浦の町並みと海が一望できます。毎年9月の例祭では、神輿と江戸の名工達による彫刻に彩られた祭屋台が曳き廻され、また「かつうらビッグひな祭り」の会場にもなっています。	勝浦市
59	吉保八幡のやぶさめ	毎年9月の最終日曜日に催される吉尾地区の八幡神社の祭礼・神事。もともとの起源ははっきりしませんが、社伝によれば、鎌倉時代中期までさかのぼるといわれています。約210メートルの馬場を疾駆しながら、3つの的めがけて矢を放ち、それを3回繰り返します。他で行われているやぶさめと異なる特徴としては、的までの距離が遠い点が挙げられます。これは、武芸としてよりも、五穀豊穡を祈願し農作物の収穫の豊凶を占うことを第一の目的として行われて来たためです。的に当てることよりも、放った矢の当たり外れによって、ご託宣がもたらされると考えられているため、的から外れることにも重要な意味があります。昭和40年に県指定無形民俗文化財に指定されています。	鴨川市
60	岡本棧橋（原岡棧橋）	原岡海岸～多田良北浜海岸間にある岡本棧橋は、全国でも数少ない木製の棧橋。ロケ地としても人気が、レトロな風景はフォトジェニックなスポットとしてたくさんの方が訪れます。天気の良い日には海の向こうに富士山が見えます。	南房総市
61	白間津のオオマチ（大祭）	南房総市千倉町の白間津地区で、4年に1度、7月下旬の3日間にわたって行われる祭礼行事。当地の氏神である日枝神社の祭礼にともなうもので、神社の神輿による浜降り神事と、大きな幟を競って曳くオオナワタシと呼ぶ行事、それにササラ踊り（全12曲）を中心とする民俗芸能の3つの要素からなるものです。祭りの中心的存在に仲立ち（日天・月天）と称する少年2名による神役がいますが、彼らは長期にわたる厳格な物忌みを経たうえで、祭りをあずかります。	南房総市

ちば文化資産 追加候補概要

令和4年11月17日現在

No.	文化資産名	説明文	所在市町村
62	富山と南総里見八犬伝	房総丘陵の山の一つであり、「南総里見八犬伝」ゆかりの地。展望と歴史のロマンに包まれた山として知られています。また、「南総里見八犬伝」は、江戸時代の戯作家曲亭馬琴による全106冊の長編小説です。戦国時代の里見氏の歴史を背景に、里見氏の娘伏姫から霊玉を授かった八犬士の活躍を描いた物語です。	南房総市
63	野島埼灯台	房総半島の最南端にある高さ29mの灯台。招へいされたフランス人技師のF・L・ヴェルニーのもと設計・施工され、明治2年（1869年）に点灯しましたが、関東大震災で倒壊したため、現在の姿は大正14年（1925年）に再建されたものです。	南房総市
64	抱湖園（元朝桜）	南房総市和田町は、全国的にも有名な花の産地で、その昔、間宮七郎平という薬剤師が旧和田町に住んでおり、安房で初めて花づくりに成功しました。七郎平は、次に山を切り開き、花木を植えることを思い立ち、自ら鋤を持って花園の裏山の堰の周りを開墾し、「抱湖園」と名付けて花木を植えました。	南房総市
65	房総のめがね橋（眺尾橋）と作家・林芙美子の「房州白濱海岸」	めがね橋（正式名称：長尾橋）は、南房総市白浜町の長尾川に架設されています。石積み工法の洋式三重橋で、川辺に映るその姿がめがねに似ているところから「めがね橋」と呼ばれています。明治21年（1888年）3月に地元の寄付で造られました。林芙美子の紀行文「房州白濱海岸」に登場します。土木学会選奨土木遺産（平成17年）。	南房総市
66	菱川師宣記念館	菱川師宣は、浮世絵の祖として江戸時代に活躍した絵師であり、「見返り美人図」の作者として有名です。 生誕の地 鋸南町にある菱川師宣記念館は、1985年開館の公立浮世絵美術館で、郷土の偉人・菱川師宣と浮世絵について紹介する施設です。菱川師宣の生い立ちから、江戸での活躍、江戸美術界に与えた影響など、師宣の作品を通して紹介するとともに、そこに描かれた浮世を謳歌する江戸の人々の姿を通して、浮世絵の誕生にせまります。 また、師宣以降の浮世絵師たちの作品を多数展示し、その後の江戸庶民芸術・浮世絵の歴史や、浮世絵に見る江戸の庶民風俗を紹介しているほか、年に数回企画展・特別展を開催しています。	鋸南町
67	捕鯨	南房総地域（鋸南町勝山）では江戸時代から捕鯨が行われていました。南房総市和田町には日本で四カ所しかない捕鯨基地があり、くじらが房総半島に近づくと6月から9月に捕鯨を行います。捕獲された鯨の解体の様子は見学でき、早朝にも関わらず観光客にも人気です。解体された鯨はクジラのタレや竜田揚げなど様々なくじら料理で楽しめるだけでなく、捨てることなく全てが利用されています。	南房総市、鋸南町
68	後藤 義光（彫刻）	初代後藤利兵衛橋義光は、江戸時代末期から明治期の宮彫り師です。籠掘り技法を得意とし、安房地方の寺社や各地の山車・神輿に龍の彫刻を多く残しています。 また、数多くの作品を残しながら弟子の育成にも心を砕き、一門からは多くの腕の良い彫り物師を輩出しました。	館山市、鴨川市、南房総市、鋸南町など
69	木更津中島の梵天立て	年始の海へ若者たちが梵天を持って入り、どれだけ遠くに建てられるかを競って、五穀豊穡や浜大漁などを祈ります。江戸時代から続く民俗行事です。国記録選択無形民俗文化財。	木更津市
70	馬来田国の首長墓金鈴塚古墳と副葬品	祇園・長須賀古墳群に属する墳丘長約90mの前方後円墳です。6世紀末から7世紀初頭の築造とみられ、被葬者は馬来田国造の系譜と考えられています。過去の発掘調査により、名称の由来となった金鈴をはじめ、多くの金銅製の副葬品が出土しており、その出土品及び石棺は、国の重要文化財に指定されています。木更津市郷土博物館金のすずで資料が展示されています。	木更津市
71	養老川流域田淵の地磁気逆転地層（チバニアン）	約77万年前に地球で起きた最後の地磁気逆転の痕跡を連続して捉えることのできる極めて貴重な地層であることから、平成30年に国指定天然記念物に指定されました。また令和2年、国際地質科学連合により国際境界模式地（GSSP）に認定され、地質年代「チバニアン」が誕生しました。このことを記念して令和4年には地層に、GSSPの指標であるゴールドenspイクを設置しました。	市原市
72	神馬（おめし）	例年7月22日前後に行われる人見神社の神事。神主に選ばれた神馬を伴い石段を上り、頂上の境内を目指します。この神事は、村々の大漁と豊作を祈って受け継がれてきたものです。社殿内を滞りなく回り終えた年は豊作になると言われています。	君津市

No.	文化資産名	説明文	所在市町村
73	鹿野山神野寺	鹿野山山上の熊野峰に位置し、境内には国指定重要文化財の表門や県指定有形文化財の本堂などを有する規模を誇ります。寺伝によれば、聖徳太子によって鹿野山と名付けられ、開山されたと伝えられています。天正19年（1591年）徳川家康公の台命により佐貫城主内藤家長が伽藍僧坊を造営して以来、薬師如来の霊場として栄えています。	君津市
74	久留里城	君津市の山間部、久留里にある久留里城は別名「兩城」（うじょう）の伝説をもち、戦国時代には里見氏、江戸時代には土屋氏・黒田氏の居城として明治維新まで続きました。現在、本丸跡には天守閣が建てられ、二の丸跡の資料館では、城と郷土の歴史に関する資料を紹介しています。久留里の城下周辺は、伝統的井戸掘り技術「上総掘り」によって掘られた井戸があることでも知られ、その水は県内で唯一の「平成の名水百選」に選ばれています。	君津市
75	吾妻神社の馬だし祭り	馬の両脇に二人の青年がしがみついて海岸を疾走する勇壮な神事です。9月の敬老の日前の日曜日に行われます。吾妻神社は日本武尊の身代わりに入水した弟橘媛を祭る神社で、媛の遺品の櫛を馬がくわえて神社に運んだという伝説に因むものです。平成29年に県指定無形民俗文化財に指定されました。	富津市
76	須恵国の首長墓群 内裏塚古墳群	5世紀から7世紀にかけての古墳群で、須恵国の首長の墓群と考えられています。内裏塚古墳は南関東で一番大きく国指定史跡になっており、前方後円墳や方墳等、現在49基が確認されています。	富津市
77	房総半島南部の大貝塚 山野貝塚	縄文時代後期～晩期（今から4,000年前～2,300年前）にかけて連綿と営まれた貝塚です。保存状態が良く、縄文時代の風景を伝える遺跡として、平成29年10月、国史跡に指定されました。	袖ヶ浦市
78	参勤の道 ご利益の道・成田街道（佐倉道）と沿道歴史文化遺産	江戸から佐倉城下を経て成田山新勝寺に向かう成田街道は、江戸時代の初め、上総や下総の大名が参勤交代で通行した道です。江戸時代中期になると、江戸庶民の間で成田山詣が盛んになり、御利益を求めて多くの人々が往来しました。なお、江戸幕府での正式名称は佐倉道でしたが、成田山参詣が盛んになると成田道と呼ばれるようになりました。宿場が整備され、街道沿いには現在も七代目市川團十郎が立てた井野の道標をはじめ常夜燈、石仏、石碑、道路元標などの近世・近代の石造物を目にすることができます。また、市川関所跡・中山法華経寺・船橋大神宮・長妙寺・加賀清水・臼井城跡・酒々井土蔵造りの街並みや、沿道の村人たちの民間信仰の証である馬頭観音・庚申塔などが点在しています。	市川市、船橋市、八千代市、佐倉市、酒々井町、成田市
79	東金御成街道	東金御成街道は、徳川家康の命で造成された道です。慶長19年（1614年）、家康の命を受けた土井利勝により、船橋から東金を結ぶ道として造成されました。徳川家康が東金へ鷹狩りに出かけるために作られた街道で、船橋から東金間約37キロを周囲の村97ヶ村の農民を総動員し、短期間で造成されたため、三日三晩で造ったともいわれています。現在も往時の姿を止めた箇所がみられ、その一部といわれている東金市の山王坂は、S字状切通しの急坂で、坂の途中には道祖神の祠や小さな権現滝があり、古道の風情が漂います。また、街道沿いには、一里塚や将軍が滞在した御殿跡、徳川家にまつわる社寺や伝承等が各地に残されています。	船橋市、習志野市、千葉市、四街道市、八街市、東金市
80	両総用水施設と十枝の森	両総用水施設は、下総と上総をつなぐ水の道。昭和18年より23年の歳月をかけ完成した、利根川から栗山川を経由し一宮川まで届く総延長78kmに及ぶ日本でも有数の農業水利施設です。平成5年度から平成26年度に実施した国営の施設更新事業によりパイプライン化及び2路線化しています。このうち、東金市にある「両総東金支線丹筒分水」は、農業用水などを一定の割合で正確に分配するために用いられる水利施設で、農繁期にあたる5～8月頃は水量が多く見ごたえがあります。また、大網白里市にある「十枝の森」は、両総用水を完成させた十枝雄三氏の住宅跡です。敷地内にはこの十枝雄三氏の功労を顕彰するために建立された碑があるほか、約30種類、数百本の樹木が大きく枝を広げています。毎年、11月下旬から12月上旬には紅葉の見頃を迎え、近隣住民から親しまれています。	香取市、成田市、神崎町、多古町、匝瑳市、横芝光町、山武市、東金市、九十九里町、大網白里市、白子町、茂原市、長生村、一宮町
81	手賀沼周辺の公園群	手賀沼の両岸に公園・緑地帯が連続し、手賀沼の風情を描き出しています。岸辺の桜並木がすばらしく、鳥の博物館もあるなど、市民の憩いの場となっており、休日は大勢の親子で賑わっています。	柏市、我孫子市、印西市

ちば文化資産 追加候補概要

令和4年11月17日現在

No.	文化資産名	説明文	所在市町村
82	印旛沼龍神伝説を伝える三寺（龍角寺、龍腹寺、龍尾寺）	栄町の龍角寺、印西市の龍腹寺、匝瑳市の龍尾寺は、印旛沼周辺に伝わる龍神伝説にまつわる三寺です。大旱魃から民を救うために、雨乞祈禱が当寺で行われましたが、聴衆の中から小竜の化身が現れ、大竜の許しを得ずに慈雨を降らせたため、体を三つに裂かれ、その頭、腹、尾をそれぞれ祀ったのが龍角寺、龍腹寺、龍尾寺であると伝えられています。いずれも千年以上の歴史を持つ寺で、龍角寺の本尊の薬師如来坐像は、関東地方に残る希少な白鳳仏として国の重要文化財に指定されています。また、龍腹寺の梵鐘は県指定有形文化財に指定されているほか、龍尾寺の板碑は南北朝時代に建てられたものといわれています。	栄町、印西市、匝瑳市
83	東京湾や沿岸に残る戦跡	千葉県南部には江戸期より江戸・首都防衛ラインとして計画・活用された砲台跡や、軍事施設などの戦争遺跡が数多く残っています。「東京湾海堡」は明治から大正にかけてつくられ、軍事施設でもある一方、当時の人工島建設としては土木遺産でもあります。第二海堡は改修後、クルーズなどで上陸できるようになりました。近隣にある「富津岬」は砲台、太平洋戦争時は射場として重要な軍事施設で、日本で唯一の列車砲も置かれていました。また、「館山海軍航空隊赤山地下壕跡」は、太平洋戦争末期に掘り始められ、合計した長さが1.6kmあります。壕内では、およそ2,400万年前のやわらかい地層が重なり合い形成されている様子を観察することができます。「大房岬」は、房総半島南部にある東京湾を臨む岬で、富津岬と並んでかつては軍事施設がつくられ、砲台跡や要塞群など当時の遺構も残っています。今はレジャーが楽しめる自然公園になっています。	富津市、館山市、南房総市
84	松澤熊野神社式年神幸祭	12年に一度、卯年ごとに行われる神幸祭です。次回（令和5年（2023年）10月）で90回目となります。神輿の行列が、芸能団体を伴い2市1町約50kmに及ぶ順路を巡り、各地に設けられた番所で伝統芸能を披露します。また、旭市三川の海岸では、神輿が海に入る「お浜降り」を行う壮大な時代絵巻です。	旭市、香取市、東庄町
85	サーフィンの聖地外房	日本のサーフィン発祥の地の一つといわれ、また日本一良い波が立つともいわれます。オリンピック開催前からサーフィン愛好家には人気のスポットとして有名です。	外房地域
86	サンプスギ	サンプスギは、千葉県で生まれた優良な性質を多く持つ挿し木スギであり、250年以上前から山武林業地において挿し木造林の技術とともに受け継がれてきたものです。また、地元の山武地方では、カンノウスギという名称で呼ばれてきました。古くから建築用材、玄関・ふすま等の建具材、船材として利用され、現在でも家具や木製小物など様々な用途に利用されています。	山武市など県広域
87	落花生味噌	落花生には脂肪、たんぱく質などの栄養素が豊富に含まれることから、今ほど食料が豊富でなかった時代、産地では保存食として落花生味噌を切らすことが無かったといわれるほど重宝され、親しまれてきました。落花生の香ばしさとみその味がよく合い、ごはんのおかずやお茶うけに喜ばれています。	八街市など県広域